

# 知的障害者の「親亡き後」に関する研究

内橋 昂大 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 河西 正博

キーワード：知的障害者，親，支援

## 1. 緒言

三原ら (2007) は、障害をもつ子どもへの生活支援は多くの場合、その親が行なっていると述べている。母親は子どもに付きっきりとなるため、人との関わりも稀薄になり母親自身がストレスなどで衰弱するというケースも少なくない。その親自身が病気・認知症・死亡等によって子どもを支援することができなくなった場合、誰が自分の子どもを支援してくれるのかという不安は年を重ねるごとに増大していく。また、その不安の当事者である保護者の実態について明らかにされた研究はほとんどない。

そこで本研究では、知的・聴覚の重複障害をもつ「Aさん」の母親を対象としたインタビュー調査から、Aさんの進学、卒業後、現在の生活等を通して感じている母親の不安や葛藤を明らかにし、このような「親なき後」の不安についてどのような支援が必要なのかを検討していく。

## 2. 研究方法

Aさんの母親を対象に半構造化インタビューを行った。

### 【主な質問項目】

- 1) Aさんについて
  - ・学歴 (校種の移り変わり) とそこでの生活
  - ・学校卒業後の施設での生活
  - ・障害の状況について
- 2) 保護者自身について
  - ・出産から障害告知までの出来事や感情
  - ・Aさんの生活についての考え (現在, 将来)
  - ・Aさんのケアに関する周囲の人々への期待
- 3) Aさんの周囲の人々 (学校, 医療, 福祉関係者) との関わり (いつ, どこで出会ったか, 印象に残った出来事等)

## 3. 結果と考察

### 1) 保護者の障害児に対する意識・不安

Aさんには重複障害があり、日常生活に関して様々な困難がみられる。そのため障害告知後のケアや、その後の学校選択など様々な不安が母親に現れたという。また、15歳頃から現れ始めた行動障害による周囲への他害が理由で、Aさんは福祉施設を移らなければならないこ

とがあった。そして、母親の一番の悩みは自分たちの死後のAさんの生活であるという。

以上のことから、母親の現在の「不安」とは、過去のAさんとの関わりや出来事、将来に対する期待や不安が入り混じっており、Aさんの「過去」「現在」「未来」が合わさって生じているものであることが明らかになった。

### 2) 障害児の親に対する周囲のサポート

前述のように、母親はAさんの自立生活に不安を抱えていることが明らかになった。特に、母親の死後が問題であり、誰がAさんのサポートをするのかが一番の不安である。その不安がなくなることはないが、現在、Aさんは障害者入所更生施設に入所しており、その施設関係者のみならず、他の福祉関係者や医療関係者等、周囲の人々がAさんや母親の視点に立ったサポートをしていくことで、母親の不安が軽減されていくものであると考えられる。

### 4. おわりに

Aさんの進学、学校卒業後、現在の生活を通して、我が子 (障害児) の将来の生活に対する母親の不安が明らかになった。障害児の生活に対する親の不安の要因は様々であり、その不安を解消することは非常に難しいが、学校関係者、医療関係者、福祉関係者等が当事者の視点に立った支援を行うことで、親たちが抱える不安が軽減されていくのではないだろうか。

また、本研究は一人の障害児の母親を対象にしたため、より深く障害児の生活に対しての親の不安を検討することができた一方で、一事例の考察であるために一般化できないという課題もみられた。

### 引用・参考文献

三原博光・松本耕二・豊山大和 (2007) 知的障害者の老後に対する親達の不安に関する調査. 人間と科学 (県立広島大学保健福祉学部誌) .7(1):207 - 214.